

お盆の迎え方

ことしもまたお盆を迎える時節となりました。ご先祖様が懐かしいわが家に帰ってきます。年に一度、3泊4日の里帰り。家族みんなが集ってご先祖様をお迎えし一家団欒をする時です。

お盆には、盆棚の飾り方・ご先祖の迎え方送り方・過ごし方など、昔からのマナーがあります。昔ながらにやるのが伝統文化をつなぐ大切なところ。粗略にせず、お盆のご準備を。



<参考例>

■お盆の準備

- お迎え盆(13日)の前に、仏壇から「本尊様」「位牌」「灯明」「香炉」などを出し、かわいた布などできれいにふいておきます。香炉の灰は、割りばしなどでよくかきまわし、ゴミなどを取っておきます。
- 床の間あるいは客間、または仏壇の前などに、「お盆棚(精霊棚)」(テーブル利用でもよい)を設けます。
- お盆棚の奥に、「本尊様」「位牌」を置き、「本尊様」の前に「水(水コップ)」を供え、左右どちらかに季節の「お花」を花瓶にさして供えます。
- お盆棚の上(手前側)に、八百屋さんなどで売っている「まこも」を敷きます。
- その「まこも」の上に、
 - ①中央に、「お供え物」の「盆幡(ぼんばた)を立てたぼたもち」(画像参照)を供えます。盆幡はお寺での「初盆特別供養法要」の際授与されます。
 - ②そのまわりに、「お供え物」(水の子(画像参照)・そうめん・果物・とうもろこしなど)を供えます。
 - ③手前の左右に、「ご先祖様をお迎えに行く馬(キュウリ)」と、「お見送り用の牛(ナス)」を置きます。
 - ④手前の中央に、「灯明」「香炉」「ローソク」「お線香」「マッチ」などを置きます。
- お線香は、上品なおいのものを選んでください。煙の出ないものがあります。ローソクは、すぐ燃えつきてしまう小さなものはやめましょう。安全で長い時間もつものがあります。
- 「盆提灯」は、お葬式の時に供えられた提灯とはちがうものますのでご注意ください。盆提灯は、初盆の時に兄弟(姉妹)たちが供えるものです。



■お盆迎えについて(13日夕方までにお迎えを)

- お墓がお寺にあり、市内にお住いの場合
 - 「迎え火」は新大師堂(旧本堂)に準備します。「迎え火」のローソクを提灯のなかに入れて持ち帰り、その火を「盆棚」のローソクに移します。お盆中は火をたやさず、送りの日の16日午前中まで、日中はつけておく(夜は「盆提灯」をつけておく)ようにしてください。
 - 「盆供」「盆礼」「灯明代」「おろう代」「油代」「寸志」等のお志は、寺務所の方でお受けしております。
- お墓がお寺ではない場合
お墓で「おがら(麻がら)」を燃やし、その火から手提灯のローソクに火を移します。あとは同じ要領です。
- 東京など市外遠方の場合
家の玄関先で「おがら」を燃やし、それを「盆棚」に移します。あとは同じ要領です。